

近く議会委へ「国の安全対策」報告

宇治市会 決算委 宇治川土の流出、その後の対応質す

宇治市議会決算特別委員会(長野恵津子委員長、12人)の建設部、都市整備部の部局別審査が1日にあった。2月に国が宇治川塔の島で実施していた河道掘削現場で、約2千袋の大型土のうが流出した問題を共産委員が取り上げた。工事に対する国の安全性の担保が不十分な上、責任の所在も曖昧な不誠実な回答だとして、8月の市議会所管委員会で各委員から不満が噴出するなど、工事再開のメドに至っていない。地元理解が得られるよう調整を急ぐとともに、近く予定する所管の議会建設水道常任委員会に、国からの再回答、再度の調整内容を市が改めて示す準備にも入っている。

この問題では、国交省近畿地方整備局淀川河川事務所長から宇治市長に事故原因と再発防止策についての回答が文書で示されたが、内容を報告した8月の議会委でも国の回答に

「責任所在が不明、安全性が担保されるまで工事再開のゴーサインを出すな」などの厳しい指摘があり、市は「何をもちて工事再開をOKとするのか、基準をつくることも検討

したい。委員会での指摘も国にきっちり伝える」と答弁した経過がある。

この日の委員会では、今後の対応や流出した土砂の問題を水谷委員(共産)が問題視。

「白い泡状の気泡が現場の写真から見て取れ、臭気を指摘する声もあった。一度確認を」と市に対応を求めた。

市の大関理事は「土砂は、ストックヤードに入れる際に検査を経

ており、気泡は有害物質ではない。国に確認した」などと答えた。

宇治川の掘削工事の再開見通しについて、山崎委員(共産)の質問のなかで、同理事は「近く議会建水委に報告する」と答弁。国が早期の工事再開に向けて、再調整してきた内容を市が近く報告すること、日程調整に入っていることを伝えた。